



《斜めの彫刻》2016-2017 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates 撮影：柳場大

富井 大裕 Motohiro TOMII

「斜めの彫刻」

会期：2020年10月17日(土) - 11月21日(土)
会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206
営業時間：12:00-18:00 定休日：日、月、祝日
TEL: 03-6276-6731
*オープニングレセプションは開催致しません。

*弊廊ウェブサイトを随時更新して参りますので、ご確認の上ご来廊くださいますよう、お願い申し上げます。

【ご来廊時の協力につきまして】

- *発熱、頭痛、咳、呼吸困難、倦怠感、嗅覚味覚異常など体調のすぐれないお客様はご来廊をお控えいただくようお願い致します。
- *マスクのご着用をお願いします。またご来廊時には入口にて手指のアルコール消毒と、非接触型体温計による検温にご協力いただくようお願いしております。
- *万が一関係者などから新型コロナウイルス感染症の発症があった場合、連絡を差し上げられるよう、ご連絡先の記入をお願い致します。
- *大人数での来廊はなるべくお控えください。
- *混雑が発生した場合は、入場制限をすることがございますのでご了承ください。

ギャラリーでの換気のため、常時ドアと窓を開放しております。スタッフは毎日必ず検温を含む健康チェックを行い、手洗い、消毒液による殺菌をこまめに行なっております。予防対策として、マスクを着用し、ご対応させていただく場合がございます。

Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuでは、2020年10月17日(土)より、富井大裕の個展「斜めの彫刻」を開催致します。

美術家・富井大裕の新作個展を開催致します。富井は、主に既製の製品や日用品を用いて、明解な構成手法からなる彫刻作品を手がけてきました。富井の制作は、彫刻の素材となるオブジェクトが、論理的な操作によって組み合わせられ造形されることで、当のオブジェクトには本来与えられていなかったような、新たな使用法、新たな動作に開かれることに特徴があります。今回、富井は、小さなダンボールの端材を思いつきで塗装したことから、新作のアイデアを着想したと言います。さらに富井は、その塗られた端材を「斜めにしたい」と考え、それをもとに新作《斜めの彫刻》を制作しました。これまでの制作において富井は、何らかの操作や、体勢・位置関係の変化を通じて、たんなるオブジェクトが、「彫刻」になる、その瞬間こそを見極めようとしてきました。あるオブジェクトを「斜めにすること」あるいはそれが「斜めであること」。オブジェクトに与えられたその変異が、彫刻＝作品を形成しうるのかどうか――。本展においても、富井のこの問題意識は一貫していると言えるでしょう。富井大裕の新たな展開を、ぜひご覧下さい。



■アーティスト・ステートメント

「斜めの彫刻」について

この作品は、2016年にダンボールの小さな端材を思いつきで塗装したことから始まっている。作品にするという目的も、作品になるという確証もない。ただ塗ることに集中し、作業場の傍に置いておく。そんな「塗られた端材」をどうにかしたい。私と端材のその関係を保持したまま。

気になったことが作品になることは芸術の王道だ。眼球の白目に写っていたものが、時間（経験と偶然）を経て、黒目の中心、焦点のど真ん中に移動してくる。

この「作品への道」を歩むことなく、気になったことを白目の位置に保持したまま、作品にすることは可能だろうか。そんなことを考えながら、端材を眺めて1年半。私は端材を斜めにしたと思った。端材を斜めにするのではなく、端材が斜めであることが作品になる。「それ」を作りたい。

垂直でも水平でもなく斜め。斜め状態の作品は珍しくない。壁に立てかける、天井から吊るす、斜めに立たせる、などなど。私がしたいことは斜め状態をつくるのではなく、斜めから考えはじめること。斜めは芸術の可動域であり、その境界はまだ見えない。

いまの作品はカタパルトの形状になっている。私にとってカタパルトは予測地点へ到達することの期待と、不測の道行きへの希望、その混在の象徴だ。ここから（このまま）何がはじまるか。

富井 大裕

■関連情報（展覧会）

富井 大裕 「メロー」

2020年10月24日（土） - 12月6日（日）

会場：KAIKA 東京 by THE SHARE HOTELS

〒130-0004 東京都墨田区 2-16-5

TEL：03-3625-2165

<https://www.thesharehotels.com/kaika/event/>

KAIKA は展示スペースとして見るとなかなかハードな印象だ。金属製ケージにコンクリ、照明の印象から私が連想するのは「シルベスター・スタローン」。しかし、ホテルとして白塗りの外観を潜り、ロビーの周囲を眺めるとそんな印象は薄れる。ハードな設えが茶目っ気にも思えてくる。宛ら「ジャッキー・チェン」と言ったところか。そんなKAIKAで展覧会をすることは難しい。展示の醍醐味は緊張感であり、ホテルのそれは寛ぎである。全く逆だ（そこがKAIKAの面白いところなのだが）。私ができることは、その端境の感覚を展示空間として演出すること。出品作は風呂に関わるものによる彫刻で、そのものもつ柔らかみのある質感+フォルムが塔状に自立することで、ちょっと判断のつきかねる存在になる予定。この感覚を私はメローと呼びたい。まるやかというような意味だが、メローのカタカナ表記と語感の響きがこの作品には重要だと思う。強いていえば「岩下志麻」。



《メロー》 2020
展示風景：「再構築」（練馬区立美術館、2020年）
©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
撮影：柳場大



■アーティスト・プロフィール

富井 大裕 (Motohiro Tomii)

1973 新潟生まれ 東京都在住
 1999 武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了
 2015-16 文化庁新進芸術家海外研修制度派遣研修員としてニューヨーク（アメリカ）に滞在

<主な個展>

- 2020 「紙屑と空間」 Art Center Ongoing/東京
 「一寸」 照恩寺/東京
 「動き」 switch point/東京
- 2019 「彫刻になるか? -ノート、箒、BAR」 マツモトアートセンター-GALLERY、awai art center; kulwa/松本、長野
 「素描、彫刻」 HIGURE17-15cas/東京
 「泊まる彫刻」 RCHOTEL 京都八坂/京都
- 2018 「線を借りる」 void+/東京
 「コンポジション -モノが持つルール-」 ATELIER MUJI/東京
 「関係する/Interact」 (PLACE) by method/東京
- 2017 「turn」 Art Center Ongoing/東京
 「スケッチ」 代田橋 納戸、gallery DEN5/東京
 「像を結ぶ」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku/東京
- 2015 「粘土の為にコンポジション」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku/東京
- 2014 「SHOW-CASE project No.1: 3個の消しゴム」 慶應義塾大学アート・センター/東京
 「デイリーコンポジション」 Art Center Ongoing/東京
 「繊維街 日本橋」 NICA/東京
 「SHOW-CASE project No.0: Blind Composition」 慶應義塾大学アート・センター/東京
- 2013 「直線と周囲」 switch point/東京
 「繊維街」 N-MARK B1 ギャラリー/名古屋
 「combine -still-」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku/東京
- 2012 「Kart Invitation Program Vol.3 つくることの理由」 Gallery Kart/東京
 「衣服」 switch point/東京
 「4つの仕事」 Art Center Ongoing/東京
- 2011 「taking bump」 switch point/東京
 「5x14」 NADiff Window Gallery/東京
 「色と形を並べる」 ラディウム-レントゲンヴェルケ/東京
- 2010 「鉛筆のテーブル」 switch point/東京
 「つくるために必要なこと」 金沢美術工芸大学アートギャラリー/石川
 「ball pipe ball」 玉川大学 Tamagawa Art Gallery Projects/東京
 「STACK」 NADiff Gallery/東京
 「作品展」 NADiff A/P/A/R/T 店内/東京
 「catch as catch can」 現代 HEIGHTS Gallery DEN/東京
- 2009 「新作展」 switch point/東京
 「かみの仕事」 Art Center Ongoing/東京
 「copy boy」 ギャラリー現/東京
- 2008 「みるための時間」 switch point/東京
 「身の回りのものによる色とかたち」 遊戯室（中崎透+遠藤水城）/茨城
 「企画展=収蔵展」 アーカス・スタジオ/茨城
- 2007 「みるための時間」 武蔵野美術大学美術資料図書館・民俗資料室ギャラリー/東京
 「αm プロジェクト1 ON THE TRAIL vol.2」 art space kimura ASK?/東京
 「まると四角」 switch point/東京
 「世界のつくりかた」 art & river bank/東京
- 2006 「出会い直し」 switch point/東京
 ギャラリー現/東京
- 2005 「仮眠的」 中崎透遊戯室/東京
 「空白の作り方」 U8 Projects/愛知
 CAS/大阪
 「いつものこと」 switch point/東京
- 2004 「荷物 baggage」 switch point/東京
 シリーズ展「THE COVER」 ZaGallery 有明/東京
- 2003 「世界の真上で」 art & river bank/東京
- 2002 「隣の夢」 なるせ美術座/東京
 「周辺と周縁」 モリスギャラリー/東京
 「早送り、巻戻し、」 ZaGallery 有明/東京
 「ありさま」 マキイマサルファインアーツ/東京
 「ある」 藍画廊/東京
- 2001 「あけすけ」 (第4回アート公募2000 審査員大賞展) モリスギャラリー/東京
- 2000 「モノローグ」 松明堂ギャラリー/東京
- 1999 「煙の点」 ギャラリー現/東京
 「見えない部屋」 ガレリアラセン/東京
 「ものかたち」 なるせ美術座/東京
- 1998 「周辺のカタチ」 ギャラリー現/東京



<主なグループ展>

- 2020 「練馬区立美術館開館 35 周年記念 Re construction 再構築」練馬区立美術館／東京
「都美セレクション グループ展 2020 『描かれたプール、日焼けあとがついた』」東京都美術館／東京
「M のたね」武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス 1F 共創スタジオ、MUJlcom／東京
- 2019 「引込線／放射線 Absorption/Radiation」第 19 北斗ビル／所沢、埼玉
「時間／彫刻 -時をかけるかたち-」東京藝術大学大学美術館 陳列館 1,2 階／東京
- 2018 「メルド彫刻の先の先」Maki Fine Arts／東京
「Asian Art Award 2018 supported by Warehouse TERRADA -ファイナリスト展」TERRADA ART COMPLEX 4F／東京
- 2017 「コレクションのススメ 2018」カサヤの森現代美術館／神奈川
「アッセンブリッジ・ナゴヤ 2017 『パノラマ庭園 -タイムシークエンス-』」名古屋港～築地口エリア一帯／名古屋
「引込線 2017」旧所沢市立第 2 学校給食センター／埼玉
「新たな価値を与える行為展」clinic／東京
「ペバクラ展」See Saw gallery／名古屋
「下品展」Art Center Ongoing／東京
「AGAIN-ST 第 6 回展覧会『平和の彫刻』」NADiff A/P/A/R/T／東京
「現代美術実験展示『パースペクティヴ(1)』」インターメディアテク／東京
「バズリアル」Tojin シェアハウス／佐賀
- 2016 「KABEGIWA 第 16 回展『DM 展(1)』」hibit／名古屋
「つらなるかたち」清津倉庫美術館／新潟
「アートフェアキワマリ 2016」水戸のキワマリ荘／茨城
- 2015-16 「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋 -日本と韓国の作家たち」国立新美術館／東京
韓国国立現代美術館（果川館）／ソウル
- 2015 「引込線 2015」旧所沢市立第 2 学校給食センター／埼玉
「単位展 -あれくらい それくらい どれくらい?」21_21 DESIGN SIGHT／東京
「エディション・ワークス Prints & Originals」GALLERY SPEAK FOR／東京
「メルド彫刻の先へ[彫刻と記録]」前橋文化研究所／群馬
- 2014 「複々線」現代 HEIGHTS Gallery DEN／東京
「METAPLAY, PRAHA - TOKYO」ギャラリークリティーク／プラハ
「柳瀬荘アート・教育プロジェクト"アウエーゲームー -茶碗に勝てるか-"」柳瀬荘／埼玉
「愉快」現代 HEIGHTS Gallery DEN
「開館 20 周年記念 MOT コレクション特別企画コンタクト」東京都現代美術館／東京
「Drawing03 -preference」渋谷画廊／東京
「道草」現代 HEIGHTS／東京
「AGAIN-ST 第 4 回展『置物は彫刻か?』」東北芸術工科大学／山形
「開館 20 周年記念 -MOT コレクション特別企画クロニクル 1995-」東京都現代美術館／東京
「竹尾ペーパーショウ 2014 『SUBTLE』」TOLOT／東京
「白川昌生 ダダ、ダダ、ダ 地域に生きる想像☆の力」アーツ前橋／群馬
「ニイガタ・クリエーション 美術館は生きている」新潟市美術館／新潟
- 2013 「ポップ&ウィーダ」東京芸術大学 YUGA Gallery、立体工房／東京
「ジェロニモ」TURNER GALLERY／東京
「MOT コレクション第 2 部 つくる、つかう、つかまえる -いくつかの彫刻から-」東京都現代美術館／東京
「AGAIN-ST 第 3 回展 Dependent sculpture -彫刻を支えるものは何か-」東京芸術大学絵画棟 1 階アートスペース 1／東京
「引込線 2013」旧所沢市立第 2 学校給食センター／埼玉
「マンハッタン太陽 光学芸術から熱学芸術への拡張：18 世紀から 21 世紀の“太陽画”の系譜」栃木県立美術館／栃木
「N+N 展 2013 『アートいないいないばあ -アートの思考法-』」練馬区立美術館／東京
「シリーズ・川崎の美術 響きあうアート」川崎市市民ミュージアム／神奈川
「AGAIN-ST 第 2 回展 『首像』 - 自問するメディアとしての彫刻」日本大学芸術学部アートギャラリー、A&D ギャラリー、Chika Ecoda／東京
「Omnilogue: Your Voice is Mine」シンガポール国立大学美術館／シンガポール
「空似」現代 HEIGHTS Gallery DEN／東京
- 2012 「岡山芸術回廊」岡山カルチャーゾーン一帯／岡山
「第 5 回 柳瀬荘アート・教育プロジェクト『アートと対話』」柳瀬荘／東京
「ジェロニモ」ターナーギャラリー／東京
「視差をしくむ」FAL 武蔵野美術大学 2 号館 1 階／東京
「開港都市にいがた 水と土の芸術祭 2012」／新潟市、新潟
「第 1 回 AGAIN-ST 展」東京造形大学 CS ギャラリー／東京
「アウトレンジ 2012」文房堂ギャラリー／東京
「460 人展」名古屋市民ギャラリー矢田／愛知
「RYUGU IS OVER!! 竜宮美術館は終わります」竜宮美術旅館／神奈川
- 2011 「ART & PRODUCT「アートとプロダクトの不穏な関係」」AI KOWADA GALLERY／東京
「岡山芸術回廊」岡山後楽園／岡山
「再考現学/Re-Modernologio phase 2: 観察術と記譜法」国際芸術センター青森／青森
「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」柳瀬荘／埼玉
「呼びとめられたものの光」名古屋ポストン美術館／愛知
「所沢ピエンナーレ美術展 2011 -引込線-」所沢市生涯学習推進センター、旧所沢市立第 2 学校給食センター／埼玉
「横浜トリエンナーレ 2011 OUR MAGIC HOUR 世界はどこまで知ることができるか?」横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫／横浜



- 「新しい立体造形：富井大裕＋照屋勇賢」旧ウォーク館（前橋美術館建設予定地）／群馬
 「彫刻・林間学校 アースパウンド」メルシャン軽井沢美術館／長野
 富井大裕＋末永史尚「二人展」switch point／東京
 「MOT アニュアル 2011 Nearest Faraway | 世界の深さのはかり方」東京都現代美術館／東京
 「A POSSIBLE DIMENSION」PANTALOON／大阪
 2010 「富永大尚＋末井史裕＋富田大彰＋森井浩裕＋末田史彰＋森永浩尚」switch point／東京
 「近藤恵介・富井大裕 あっけない絵画、明快な彫刻」Gallery Countach Kiyosumi／東京
 「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」柳瀬荘／埼玉
 「間戸／WIND-OW」MA2 Gallery／東京
 秋田県大館市アートプロジェクト「ゼロダテ／大館 2010」大館市 大町商店街／秋田
 「気象と終身 -寝違えの設置、麻痺による交通」アサヒ・アートスクエア／東京
 2009 「第1回所沢ビエンナーレ美術展 -引込線-」西武鉄道旧所沢車両工場／埼玉
 「アテンプト2 矢櫃徳三・久家靖秀・富井大裕・ジャンボスズキ」カサヤの森現代美術館／神奈川
 「Inside Outline 富井大裕＋奥村雄樹」KABEGIWA／東京
 「変成態 -リアルな現代の物質性」Vol.2 富井大裕×中西信洋「揺れ動く物性」ギャラリーαM／東京
 「リニューアル」武蔵野美術大学美術資料図書館／東京
 「壁ぎわ」現代 HEIGHTS Gallery Den／東京
 2008 「BROKEN」TIME & STYLE MIDTOWN／東京
 「5×5」万国橋ギャラリー／横浜
 アートプログラム青梅「空気遠近法・青梅-U39」青梅織物工業協同組合施設／東京
 「ニューバランス」gallery Archipelago／東京
 「DRAWING」TIME & STYLE MIDTOWN／東京
 2007 「ニュー・ヴィジョン・サイタマⅢ 7つの眼×7つの作法」埼玉県立近代美術館／埼玉
 「pre」switch point／東京
 「壁ぎわ」KABEGIWA／東京
 2006 「基準の技術」KABEGIWA／東京
 「色と形」KABEGIWA／東京
 2005 「12 DIVERS AT THE MOUNTAIN GATE」旧山口履物店／東京
 「MATERIAL MIXTURE」node cube／東京
 「芸術の／山第0合／発刊準備公開キャンプ／立体編その1」NADiff／東京
 「cat's heaven...!」gallery Archipelago／東京
 「美術の星座 2005 Constellation of Art」ギャラリーくまい／東京
 「字界へ -隘路のかたち-」長久手町文化の家／愛知
 「深川 HO-BO アート 2」深川資料館通り商店街／東京
 2004 「conran show」OKADA STUDIO／愛知
 「floating scale -『スケール』を巡る旅-」学食 2F／愛知
 「space」U8 Projects／愛知
 2003 「Small Works Exhibition」ZaGallery 有明／東京
 「菜展」藍画廊／東京
 「Jin Session 2003 Vol.4 "off topic"」ギャラリー人／東京
 「PC2003」ZaGallery 有明／東京
 「アートと暮らす新世紀4 元気の素」ZaGallery 有明／東京
 2002 「PC展」ZaGallery 有明／東京
 「GALERIA RASEN session」ガレリアラセン／東京
 2001 「minimum continuation // 継続」exhibit LIVE／東京
 「GALERIA RASEN 2001」ガレリアラセン／東京
 2000 「美術の星座 Constellation of Art 1998-1999-2000」なるせ美術座／東京
 第4回アート公募 2000 ガレリアラセン画廊企画賞展「TRANSIT／経由・帯域」ガレリアラセン／東京
 丹羽陽太郎×富井大裕「机上の空論」ギャラリーマロニエ／京都
 「GALERIA RASEN select 2000 Vol.2」ガレリアラセン／東京
 1999 木村裕×富井大裕「存在の家 -見知らぬ私のために-」メタル・アート・ミュージアム -光の谷-／千葉
 「第4回アート公募 2000」新木場 SOKO ギャラリー／東京
 「ほどけない神経の鍵穴」ギャラリー那由他／横浜
 「武蔵野美術大学大学院修了制作選抜作品展」武蔵野美術大学美術資料図書館展示室／東京
 1998 「対話する器」ギャラリー那由他／横浜
 1997 富井大裕×丹羽陽太郎「Dramaturgie -すれ違う日常-」キッド・アイラック・アート・ホール／東京

<主なパブリックコレクション>

東京都現代美術館、東京
 新潟市美術館、新潟

【本展に関するお問合せ】ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ オフィス

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#205 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail] info@ycassociates.co.jp
 [website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-18:00 [定休日] 日・月・祝日